

地域金融分科会

中期計画・年度計画

- 【中期計画】...金融機関と投融资先企業等が、地域視点を踏まえたインパクト共創*のプラットフォームを構築する
*環境・社会・経済の3側面におけるポジティブインパクトの創出、ネガティブインパクトの抑制
 【年度計画】...ポジティブ・インパクト・ファイナンス（PIF）調査による業種横断・業種別KPIの共通性の確認と、地域の課題解決やマテリアリティを考慮した共通KPIの検討

中期計画・年度計画に対する進捗度

予定通り達成見込み

- 昨年度よりSIIFの協力を得ながら、地域金融機関が実行したPIFの調査を実施。KPIのカテゴリー、企業規模、業種、創業年数等を調査し、類似性や傾向を分析中
- 今後は、調査結果を踏まえて、さらに多くの地域金融機関がインパクトファイナンスに取り組むための「インパクトファイナンス共創プラットフォームの構築」に繋げていく

中期計画に対する課題

- 「地域インパクトファイナンス」の定義の確立
暫定案：地域の課題解決に向けて、インパクトの創出に取り組む企業等を支援するファイナンス
- PIFを含むインパクトファイナンスを通じた地域課題の解決につながる共通KPIの策定
- 「PIF三層構造」のインパクト投資領域「上層」部分（インパクトKPI）の情報共有
- 内閣府の「SDGs宣言・登録・認証制度」の更なる有効活用に向けた当分科会との連携方法の検討

課題への対応方針

- 分科会メンバー等による事例共有を通じて「地域に与えるポジティブインパクト」を理解し、「地域インパクトファイナンス」の定義を確立する
- ポジティブインパクトの最大化に向けて、VCのロジックモデルを活用したインパクト分析を実施し、地域課題の解決につながるロジックモデルや共通KPIの策定に繋げる
- 21世紀金融行動原則やインパクトコンソーシアム等他のイニシアティブとのセミナーの共同開催等を通じて地域インパクトの底上げを図る

地域金融分科会

直近の活動報告

- 9/11 PIF調査の中間報告とアウトプットについて議論
- 9月中 PIF調査に関するアンケート実施（成果物の内容について）
- 10/17 PIF調査アンケート結果報告

活動から得られたFindings（学び）

- PIFにおいて現状採用されているKPIは主に3層構造の1・2層部分（経営基盤＝ESG投資領域）であることが確認できた
- KPIの分類（KPIが企業内部・外部のものか、国内の社会インパクトか、グローバルな社会インパクトか等）
- （GHG排出量削減率等の）代表的KPIに対する業種・規模・社歴毎の採用率
- 地域ごとのKPIの特徴、地域社会との関連性

来年度（2025年）注力したいポイント

<横串で議論すべき論点>

- 「融資」と「投資」の接合のあり方について、VCとの連携方法

<理由>

- 「投資」段階で特定した「インパクト」をどのように「融資」段階でも途切れることなく共有することができるか（その逆「融資」→「投資」も同様）

Social指標分科会

中期計画・年度計画	IMMの枠組みでSocial指標活用事例のカタログ化・構造化を目指す
中期計画・年度計画に対する進捗度	予定通り達成見込み
中期計画に対する課題	<ul style="list-style-type: none">● Social指標を扱う他分科会の情報収集/共有が十分にできていない● 事例カタログ化達成後のテーマやネクストステップの検討が未実施● 特に構造化についてはアドボカシーの協力をいただきながら検討予定● 事例発表者以外の分科会参加者は、事例に対するQAが中心となるため、分科会参加者の意見や要望を十分に収集できていない
来年度の注力ポイント	<ul style="list-style-type: none">● 引き続き事例の積み上げを行いつつ、事例のカタログ化に関するアウトプットの内容、形式等の検討を行う。● 分科会の参加者に分科会の今後の方向性や事例のカタログ化のアウトプットに関するご意見を貰う機会を設ける等、双方向な運営を目指す。

融資・債券分科会

中期計画・ 年度計画

- ✓ 融資・債券におけるIMM高度化と裾野拡大の両立に向け以下の戦略テーマを推進
1. IMM・エンゲージメントの高度化 **足元** : 理論・実務両面での課題整理と対外発信
 2. インパクトファイナンス市場拡大 **足元** : 銀行・証券・投資家のキャパビル、海外連携
 3. リスク・収益管理へのインパクトの織り込み **中長期** : 先行研究の調査など

中期計画・年度 計画に対する 進捗度

- ✓ 始動が24年3月となったことから、足元テーマに注力。同項目は、概ね達成見込み
1. 予定通り達成見込み (ファイナンス参入基準を期中に追加)
 2. 予定通り達成見込み (海外連携は次年度に向けて強化)
 3. 未着手

中期計画に対する 課題

- ✓ デットにおけるインパクトファイナンス推進に向けたエンゲージメントの定義・コンセンサスづくり
- ✓ より実効性のある分科会運営に向けた課題は以下の通り
- 運営・リソース : <分科会> 裾野拡大を含むリソース配分
<全体> 融資・債券分野の議論、施策リソース最適化

課題への対応方針

- ✓ 当分科会アウトプットとしてのエンゲージメントに関するガイダンス策定
- ✓ 他の分科会、他チームとの連携強化により、キャパビル・海外連携を展望

融資・債券分科会

直近の活動報告

- 8/22 分科会：参入基準にかかる議論
- 9/5 コアチーム：本年アウトプット意見摺合せ
- 9/19 分科会：アウトプット進め方議論
- 10/2 コアチーム：本年アウトプット議論
- 10/17分科会：第一生命 岡崎様をゲストスピーカーに迎え参入基準を議論&アウトプット議論

活動から得られたFindings（学び）

- インパクトの取り組み経緯や、業態によるインパクトへの期待・理解の多様性（例えば、インパクト観やアプローチや、ネガティブインパクトの取り扱いなど）
- 融資・債券におけるインパクトファイナスとしてのエンゲージメントの定義・コンセンサスの重要性

来年度（2025年）注力したいポイント

<来年度注力したいポイント>

- ✓ 今年度のプロダクト別エンゲージメントにおける整理を踏まえ、より広義でのエンゲージメントの在り方の整理
- ✓ 直関比率が5：5という日本の金融資本市場における融資・債券のインパクトファイナスの特徴の整理・共有
- ✓ 裾野拡大に向けた施策の協働推進（参入基準とのバランス）や、グローバル基準の知見獲得と発信

<理由>

- ✓ アセットオーナーの視点を含め、より包括的な議論、アセットクラス間のIMM知見共有、ならびに、日本エッジ確立※の前提として、分科会横断でエクイティに加えてデットの共通理解が必要であるため
- ✓ 当分科会の議論がIMM高度化に集中する傾向あり、アセットクラス横断での裾野拡大にかかる議論強化を展望しているため

VC分科会

直近の活動報告

- 毎月第二金曜日11:00:12:00に分科会を実施
- 今年はImpact VCによるImpact VC Playbookの日本事例集の作成に向けて、同Playbookの構成に従って、加盟機関から事例共有。これまで、Kibow, CMV, KII, SIIFIC, GLIN, はたらくファンド, 環境エネルギー投資, JICNIによる事例を紹介(毎回30-40名参加)
- 7月に夏の懇親会(対面)を開催し、30名が参加

活動から得られたFindings (学び)

- Impact VC Playbookの構成にそって、特に①インパクト投資戦略、②Investor Contribution、③IMM、④インパクトレポーティングの具体的な方法・事例を学び、各VCの実務レベルの知識向上につながった。またこのような実務レベルの情報共有に関するニーズの高さを再確認
- インパクト投資プロセスの中で共通化できる部分は共通化したいというニーズの再確認
- 懇親会などを通じてコミュニティが強化し、個社毎のやりとり、共同投資などが活性化された

来年度(2025年)注力したいポイント

<分科会としての注力ポイント>

- 日本の社会課題に合ったインパクト投資の実務上の指針(共通認識)の整理
 - Impact Frontiersと連携し、インパクトパフォーマンス報告規範パイロットプログラムの推進
- 発信を通じたインパクト投資の認知拡大と、更なる資金・人材の流入促進
 - Impact VC Playbookの日本事例集の作成
 - 課題の共通認識の醸成(共同課題マップの作成?)
 - インパクト投資の実績の蓄積・発信

<横串で議論すべき論点>

- 他アセットクラスの方々とのIMMに関するアラインメント醸成(上場株投資家、融資、等)【AO/AM】【地域金融】【債権融資】
- 課題の共通認識の醸成(共同課題マップの作成?)【全分科会】
- インパクトと企業価値向上の関係性についての考え方整理・発信【企業価値向上・全分科会】
- LPがVCのインパクト投資実務(投資テーマ、運用、報告、等)をどう見ているか、どこまで期待するか等の情報交換【AO/AM】

VC分科会

中期計画・年度計画

【中期計画】

<定性>

- 日本の社会課題に合ったインパクト投資の事例・知見の蓄積や実務上の指針（共通認識）の整理を行うことで、インパクト投資の実務的な知見不足が解消され、**インパクト志向のあるVCがインパクト投資を実施しやすくする**
- インパクト投資の実績が蓄積・発信され、**インパクト投資へ更なる資金・人材を流入させる**
- この結果、**社会課題解決を意図する企業がインパクト志向の資金提供を受け、上場後も含め、インパクトを追求した事業を継続しやすくする**

<定量>

- 賛同するVC分科会の社数増加(+10社)
- Active Participantsの維持(平均10社)
- Active Participantsの満足度向上(年1回のアンケートのスコアを前年比で向上させていく)

【年度計画】

目標①：分科会メンバーの具体事例や海外事例を通じた、各VCの実務レベルの知識向上

目標②：VC分科会としてインパクトファイナンスの実務上の共通認識の初期的整理

中期計画・年度計画に対する進捗度

予定通り達成見込み

- 定性：事例共有を通じた各VCの実務レベルの知識向上・底上げは達成見込み
- 定量：VC分科会署名機関数、Active Participantsについても達成見込み

中期計画に対する課題

- 運営におけるリソース不足
 - インパクトVCの実務上の指針（共通認識）の整理／Impact VC Playbookの日本事例集の作成
 - 課題の共通認識の醸成（共同課題マップの作成？）
 - インパクト投資の実績の蓄積・発信
- （今後の可能性として）特に情報提供側にまわることが多い方々へのエンゲージメント

課題への対応方針

- リソース不足の対応策は検討中
- Impact Frontiersと連携し、インパクト報告に関するノウハウの蓄積も並行して行うことで、エンゲージメントを高く維持する

AOAM分科会

中期計画・年度
計画

- ①アセットオーナー参画に向けたアプローチ
- ②事例共有を通じた相互発展と市場拡大
- ③エンゲージメント：2024年度「理解の促進」（認知度向上）

中期計画・年度計
画に対する進捗度

予定通り達成見込み

中期計画に対する
課題

- 計画に対するアウトカム定量計測の難しさ
- 宣言署名機関または金融機関だけで行う限界（インパクト創出の主役は企業である点など）
- 参加機関ごとに目指しているインパクトが異なる点（システムチェンジ投資と個別企業）
- （インパクト運用戦略同士）横比較の難しさが運用戦略選定のハードル
- リソース（事例共有いただく参加機関やディスクローズ可能範囲と内容のバランス）

課題への対応方針

- インパクト創出の主体である企業を巻き込んだ別分科会を設定
- ベータ（システムチェンジ）とアルファ（個別）を分けたディスカッションを設定（来年）

AOAM分科会

直近の活動報告

- 7月 インパクト・レポート事例（三菱UFJ）
- 9月 IMM事例 (NetPurpose)、投資とKPIとIMM (GLIN)
- 10月4日 カンファレンス
- 11月 インベストメントチェーン：最終受益者（日本生命） 予定

活動から得られたFindings（学び）

- 一般的なインパクト投資への認知は未だ初期段階、最終受益者である個人の理解が進むことが重要
- インパクト投資=リターンが市場より劣るという認識が未だ多いため、アセットアロケーション上の位置付けが不透明
- IMMの手法においては各社試行錯誤中であり、事例共有が有効
- インパクト創出の主役である企業との対話が重要（インパクトエンゲージメント）

来年度（2025年）注力したいポイント

<来年度注力したいポイント>

- システムチェンジ投資と個別のインパクト投資を分けたアプローチ
- インパクトエンゲージメントとIMMの具体事例共有（資産クラス別）

<理由>

- システムチェンジ投資に興味を持っているメンバーが多いが今まで議論されてきた個別のインパクトとはアプローチが異なるため整理
- 金融機関として相互発展が大きく期待できるポイント

インパクト志向企業価値向上アライアンス分科会

中期計画・年度計画	言及無し
中期計画・年度計画に対する進捗度	該当なし
中期計画に対する課題	該当なし
課題への対応方針	<p>活動の目的</p> <ol style="list-style-type: none">①インパクト創出を起点とした企業の価値創造プロセスを理解・整理する。②創出インパクトと企業価値向上の関係性（因果・相関）を分析する。③投資家が上記の企業を支援するために必要な情報開示の在り方を示す。

インパクト志向企業価値向上アライアンス分科会（ICEA）

直近の活動報告

- ~7月末：AO・AM分科会にて議論
- 8月20日(火) 運営委員会にて設立承認
- 9月24日(火) 第1回 設立会合
- 10月4日(金) 宣言主催イベントにてお披露目
- 11月14日(木) 第2回会合

活動から得られたFindings（学び）

- 活動開始直後のため学びはこれから。

来年度（2025年）注力したいポイント

<来年度注力したいポイント>

- 少し時間をかけてでも丁寧にゆっくり着実に進め、特に株式市場においてインパクトと企業価値の関連性について重要なフレームワークを出していきたい。
- 企業が創出する個別性の強いインパクトのパスウェイの解像度を高め可能な限り類型化し、まずは企業価値との繋がり解像度を上げる枠組みを作ることに重点を置いて進める。
- 個々の企業に特異なインパクトとそれに紐づく企業価値の問題と経済システム全般に横たわるシステムレベルリスクとそれに紐づく企業価値との関係性について一定の整理を行っていきたい。
- 経団連のインパクト投資WG、インパクトコンソーシアムの市場形成・調査分科会、GSG Impact Japanの「インパクトと企業価値の接続」勉強会の成果を含め他のイニシアティブと連携し、その成果をフルに統合していきたい。

<理由>

- インパクトに関心のない投資家の多い株式市場において、成果到達に時間のかかるプロジェクトであること
- 似て非なるイニシアティブが複数あるため重複を排除して連携する必要もあること

海外連携担当

中期計画・年度計画	①海外のベストプラクティス共有 ②海外プレイヤーとのネットワーキング ③日本ケースのグローバルな場における発信
中期計画・年度計画に対する進捗度	①②③それぞれ計画に沿って活動を出来てきた。 ②③において10月GIIN Impact Forumの場を活用出来た。
中期計画に対する課題	②について、年間2~3回を目標値として行っている。大きなカンファレンスに合わせて実施することが重要であるため、安定して目標値を達成するには、事前プランニングと関係者とのコミュニケーションが重要。今回はなんとかGIINのご厚意もあり無償で実施できた。
課題への対応方針	②について来年は、5月PEI Responsible Investor Forum@東京、7月IVS@京都、10月GIIN Impact Forum@Berlinでの開催を目指したく、関係各所とコミュニケーションおよび前広なプランニングを行いたい

海外連携担当

直近の活動報告

- 9月 Impact Frontiers須藤氏ウェビナーを実施
- 10月 Impact Disclosure Taskforceウェビナーを実施
- 10月 GIIN Impact Forumでのネットワーキングセッションの企画を実施
- 11月欧州クリーンテックインパクトファンドGET Fundイベント
- 12月 GIIN関連イベント(未確定)

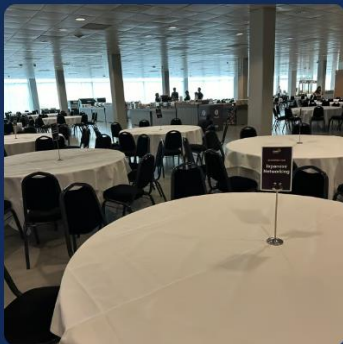
活動から得られたFindings（学び）

割愛させていただきます

分科会横断で議論すべき論点とその理由（なければ無記入でOKです）

割愛させていただきます

Japan Networking Lunchご参加の皆さま有難うございました



非公開イベント

Japan Networking Lunch

10月
23 10月23日水曜日
12:30 - 13:45 GMT+2

Amsterdam RAI
Amsterdam, Noord-Holland

参加登録

過去のイベント
このイベントは13 日前に終了しました。

ようこそ！ イベントに参加するには、以下で参加登録をしてください。

Masato Nakamura(GLIN Impact Capital)
mnakamura@glinimpact.com

参加登録

イベント詳細

Japan Impact-Driven Financing Initiative (IDFI) and Japan's Impact Consortium have reserved several tables during the GIIN Impact Forum's lunch session on October 23rd from 12:30 to 13:45 to facilitate networking for those interested in meeting and exchanging ideas with participants from Japan. Attendees from Japan will primarily be asset owners and managers keen to learn more about impact investing. This is an informal, no-agenda, free-seating lunch, available on a first-come, first-served basis.

このイベントの管理権限があります。

管理

主催

Masato Nakamura(GLIN Impact C... X

Masahiro Hata

45人が参加予定



Alex Ouimet-Storrs、Katsuki Tsuboi、他43名

ホストに連絡

